

# 「情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ」の編集にあたって

坂東 宏和<sup>1,a)</sup>

## 1. 第3巻第2号の刊行にあたって

2014年度に創刊した情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」(IPSJ Transactions on Computers and Education) (TCE) も今号で4年目に入り、これまで、招待記事を含めて通算52編の記事を掲載することができました。ご投稿いただいた皆様、査読など編集作業にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

さて、TCEでは、本会の他の論文誌と異なり、条件付き採録(照会)の回数を制限していません。このことにより、従来の1回限定の照会では不採録と判定されていた恐れのある記事に対しても積極的に条件付き採録の判定を行うことができ、採録率の向上につながっているものと考えます。その一方で、照会を繰り返すことやその他の理由により、全体として査読期間が長引く傾向があり、速報性の面で大きな問題があると感じています。この問題の改善のために今年度は、2回目以降の照会の場合には幹事団の判断により査読期間の短縮を可能にする、記事査読管理システムを変更しスムーズな査読手続きを実現するなどの改善策を検討しています。編集委員に過度の負担をかけることなく査読期間を短縮できるよう善処してまいりますので、引き続き積極的にご投稿いただければと思います。

また、編集委員の任期は、編集規程により1期2年、再任までと定められており、創刊に携わった編集委員の多くは、今年度末で任期満了となります。そのため、現在38人の編集委員(委員長・副委員長を含む)がおりますが、その半数近くに当たる18人が今年度末に退任することになります。新たな編集委員の人選や引継ぎが喫緊の課題となっています。今後もTCEを安定的に継続させていくためにも、投稿に加えて編集作業にもご理解、ご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

## 2. 本号掲載記事の紹介

本号では、招待論文1編を含む6編の記事を掲載してい

ます。

- 招待論文「大学教育におけるラーニングアナリティクスのための情報基盤システムの構築」は、教育・学習ログデータの分析(ラーニングアナリティクス)のための取り組みとして、九州大学のPC必携化および情報基盤システムM2B(みつば)の管理・運用について述べています。M2Bシステムは、Moodle(コース管理システム)、Mahara(eポートフォリオシステム)、BookLooper(デジタル教材配信システム)で構成されています。
- 「情報セキュリティ教育教材の改善検討—自由記述アンケートの分析から—」は、広島大学の学部1年生を対象として実施した自由記述式のアンケートを、テキストマイニング手法によって分析した結果について述べています。具体的には、「広大学生のための情報セキュリティポリシー・コンプライアンス」を受講する前から「知っていたこと」、受講後に「分かったこと」を自由記述により回答してもらい、その差を基に講習の効果を測定し、さらに、教材の改善に活かす試みを行っています。なお、本記事は、教育学習支援情報システム研究会(CLE研究会)から推薦されたショートペーパーです。
- 「Intuitive Analysis by Visualizing Context Relevant E-learning Data」は、非線形関係を可視化する手法であるCRSOM(Context-Relevance Self-Organizing Maps)を用いて、LMSから得られたデータを可視化した結果について述べています。CRSOMは、rRBF(Restricted Radial Basis Function: 制限付き放射基底関数)ネットワークを用いて、データを2次元に写像する方法です。CRSOMが学生の学習到達度の予測に活かせる可能性が示唆されています。
- 「CheCoPro: 協調的知識創造を指向した初学者の協調プログラミング支援システム」は、初学者を対象としたグループプログラミングを支援するシステムの提案と評価について述べています。このシステムでは、各メンバが独立したブランチを持つ、他のメンバのソースコードを容易に閲覧・コピーできるという特長を持つ

<sup>1</sup> 獨協医科大学  
Dokkyo Medical University, Shimotsuga-gun, Tochigi 321-0293, Japan

a) bandoh@fw.ipsj.or.jp

た「独立同期モデル」を提案・提供しています。評価の結果、能力にかかわらず個々のメンバが遠慮せずに満足度の高い貢献ができたことが示されています。

なお、本記事は、コンピュータと教育研究会（CE研究会）から推薦された論文です。

- 「高等学校情報科における教科担任の現状」は、高等学校情報科の教科担任の現状を、公文書公開請求によって調査した結果について述べています。都道府県教育委員会による臨時免許状の授与と、免許外教科担任の許可の状況を調査した結果、情報科では、他の教科に比べて、臨時免許状や免許外教科担任が多用されている実態が明らかになっています。

なお、本記事は、コンピュータと教育研究会（CE研究会）から推薦された論文です。

- 「教師の過去のPC操作を授業中に参照できる画面遷移参照ツールの提案と開発」は、教師のPC画面を提示しながらPCの操作方法を説明する授業の一場面において、受講者全員が必要なPC操作を把握できる環境の実現を目的としたツールの提案と開発について述べています。このツールでは、教師用PCのスクリーンショットにPC操作の内容を示す簡単な注釈を追記した画像を自動的に蓄積し、受講者が授業中の必要なときに、それらを参照できる機能を提供しています。